

5月後半時点の就職意識調査

キャリタス就活 学生モニター2028 調査結果 (2026年6月発行)

2028年3月卒業予定のキャリタス就活・学生モニター（現大学3年生、修士1年生）を対象に、5月後半時点の就職意識や就活準備状況を尋ねた。夏季インターンシップの募集が本格化する時期であることから、情報収集や参加方針を中心に、興味のある業界など幅広く調査した。

(*前年同時期は調査をしていないため前年値なし)

1. インターンシップ等(※)への参加意向

- 全体の9割以上がプログラムへの参加意向を示している (97.3%)
- オープン・カンパニーとインターンシップは「積極的に参加したい」が6割を超える

2. 参加したい時期

- 文理とも「8月」「9月」の参加希望が多いが、秋以降を予定する学生も少なくない

3. 参加方針

- 「少しでも興味があれば参加したい」62.7% ⇔ 「じっくり選びたい」37.3%
- 「事前選考があるものに参加したい」52.5% ⇔ 「事前選考がないものに参加したい」47.5%

4. 参加企業の探し方

- 探す際の軸は「興味のある業界や、それに近い企業」が文理とも約9割で最多
- 情報の入手先は「就職情報サイト」が最多 (98.3%)。「オンラインイベント」が続く (50.4%)

5. 就活準備イベントへの参加意向

- 「会場型」「オンライン形式」とともに約9割が今後の参加を予定

6. 現時点で興味のある仕事・業界

- やりたい仕事「具体的にある」は3割、「なんとなくイメージはある」が約6割
- 興味ある業界は、「メーカー」「IT・通信」「サービス」の順。「メーカー」は文理とも1位

7. 興味を持ったきっかけ

- 文系「業界研究をして」、理系「大学入学前から志望」「ゼミや研究室で専門的に学んで」

8. 就職活動に対する不安

- 「とても不安」「やや不安」を合わせ9割以上が「不安がある」と回答 (計93.6%)

9. 大学生活について

- 現在の生活の中で優先していることは「学業」に集中。登校頻度は「週5日」が最多 (33.3%)

※「インターンシップ」に限定せず、オープン・カンパニー等も含めて尋ねた

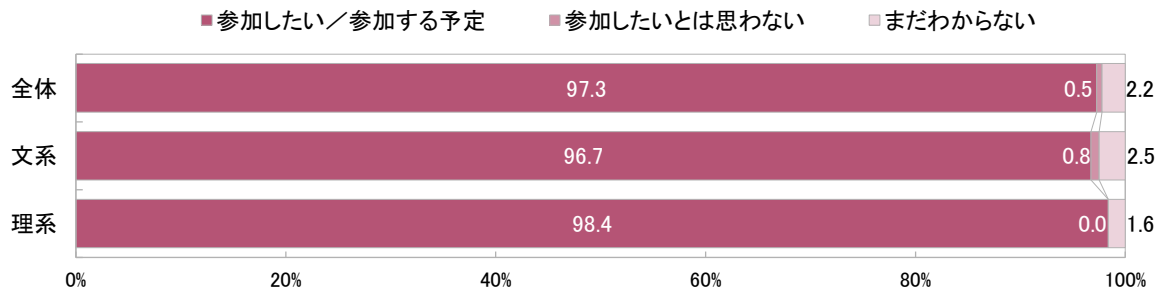
調査概要

調査対象：2028年3月に卒業予定の大学3年生（理系は大学院修士課程1年生含む）
回答者数：1,001人（文系634人、理系・学部生182人、理系・修士生185人）
調査方法：インターネット調査法
調査期間：2026年5月22日～29日
サンプリング：キャリタス就活 学生モニター2028
調査実施：株式会社キャリタス/キャリタスリサーチ

1. インターンシップ等への参加意向

大学3年生(修士1年生)の5月後半時点での、インターンシップやオープン・カンパニー等のプログラム(以下、インターンシップ等)への参加意向を尋ねたところ、「参加したい/参加する予定」は9割超(97.3%)。参加意欲が非常に高いことが見て取れる。

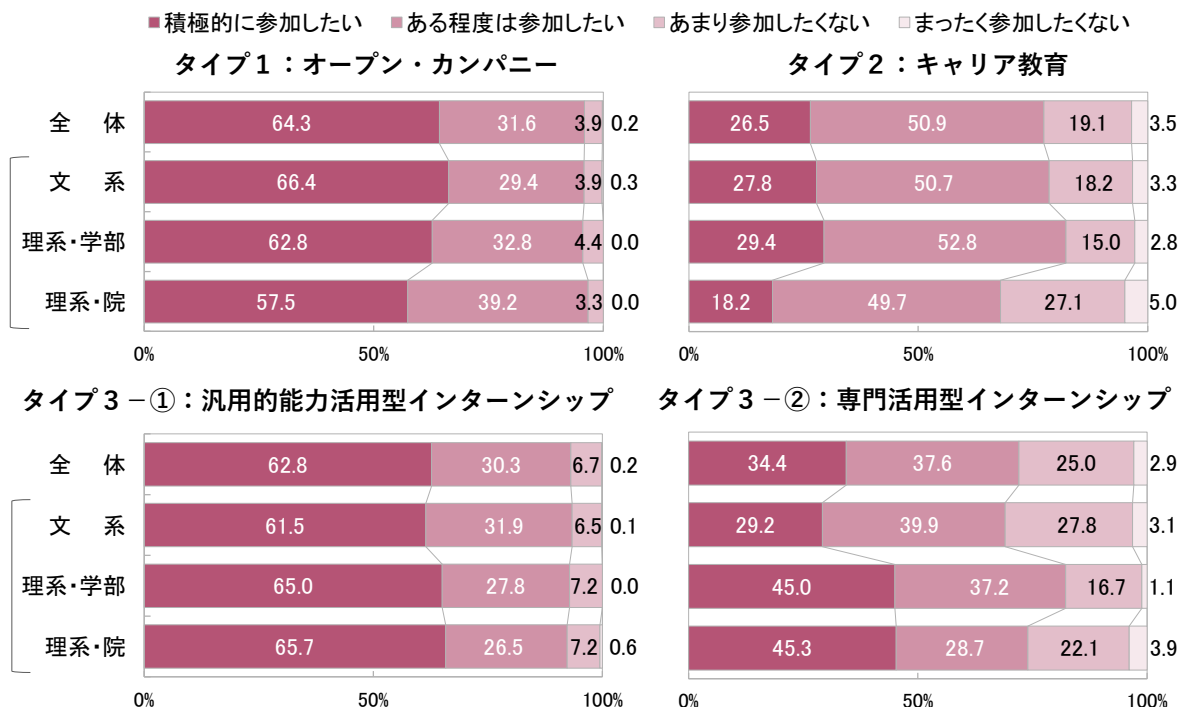
＜インターンシップ等への参加意向＞



参加意向がある学生に、キャリア形成支援4類型のうちタイプ1からタイプ3の参加意向を尋ね、文理別に比較した(理系は学部生・院生に分けて分析)。

「タイプ1:オープン・カンパニー」は、「積極的に参加したい」が6割を超える(64.3%)。「タイプ3-①:汎用的能力活用型インターンシップ」も6割超(62.8%)。「タイプ3-②:専門活用型インターンシップ」は、全体では「積極的に参加したい」が3割台だが(34.4%)、理系では4割を超える。

＜キャリア形成支援4類型各タイプの参加意向＞

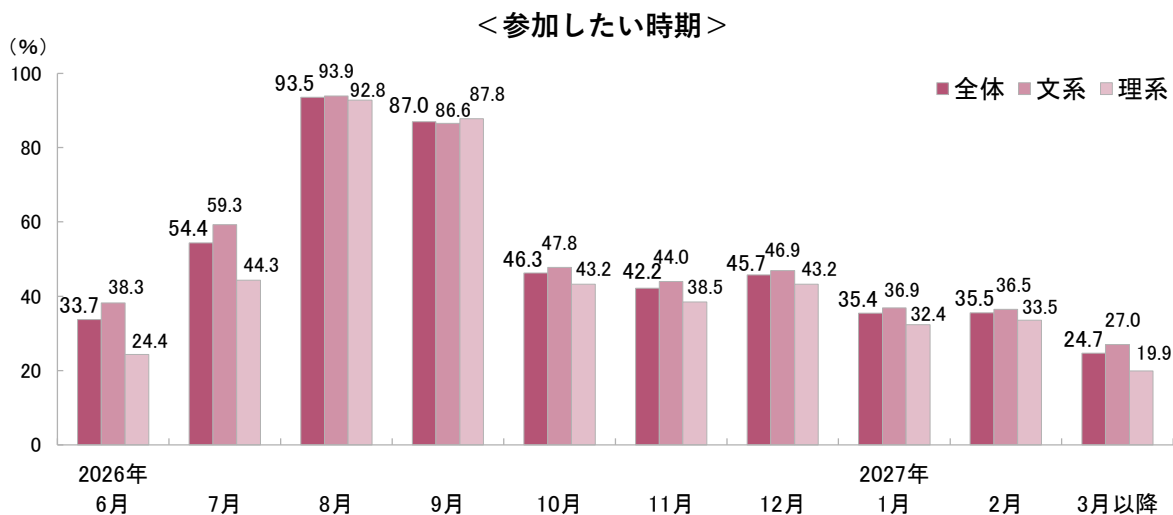


《学生のキャリア形成支援活動(4類型)》

- タイプ1 : オープン・カンパニー (業界・企業による説明会・イベント/主に短期間)
- タイプ2 : キャリア教育 (大学の授業・産学協働プログラムや企業による教育プログラム)
- タイプ3-① : 汎用的能力活用型インターンシップ (職場における実務体験/5日間以上)
- タイプ3-② : 専門活用型インターンシップ (職場における実務体験/2週間以上)
- タイプ4 : 高度専門型インターンシップ(試行) (高度な専門性を有する大学院生限定) *本調査では除外

2. 参加したい時期

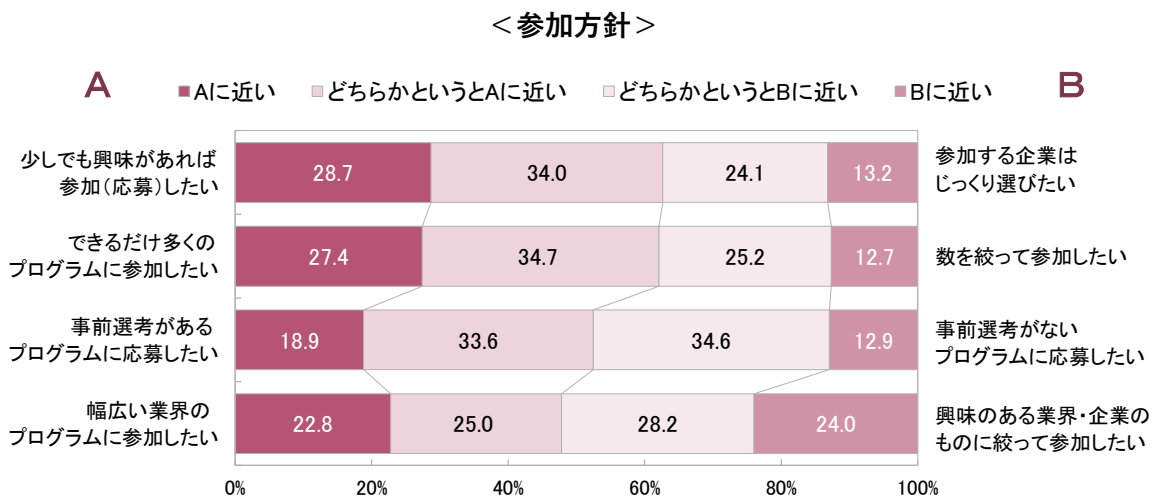
参加したい時期は、「8月」(93.5%)、「9月」(87.0%)が突出している。現時点では夏季休暇中の参加を目指している学生が多いことがわかる。一方で、10月から12月は4割台、1月、2月は3割後半に上り、すでに秋冬のプログラムへの参加を見据えている学生も少なくない。



3. 参加方針

インターンシップ等への参加方針について4つの指標で尋ねた。相反する項目のどちらに近いかを選んでもらったところ、「少しでも興味があれば参加(応募)したい」が6割を超え(計62.7%)、「参加する企業はじっくり選びたい」(計37.3%)を大きく上回る。参加数は、「できるだけ多くのプログラムに参加したい」が同じく6割超(計62.1%)。

プログラムの事前選考が「ある」ものと「ない」もの、どちらに応募したいかについては方針が二分している。また、「幅広い業界のプログラムに参加したい」(計47.8%)と「興味のある業界・企業のものに絞って参加したい」(計52.2%)も拮抗している。

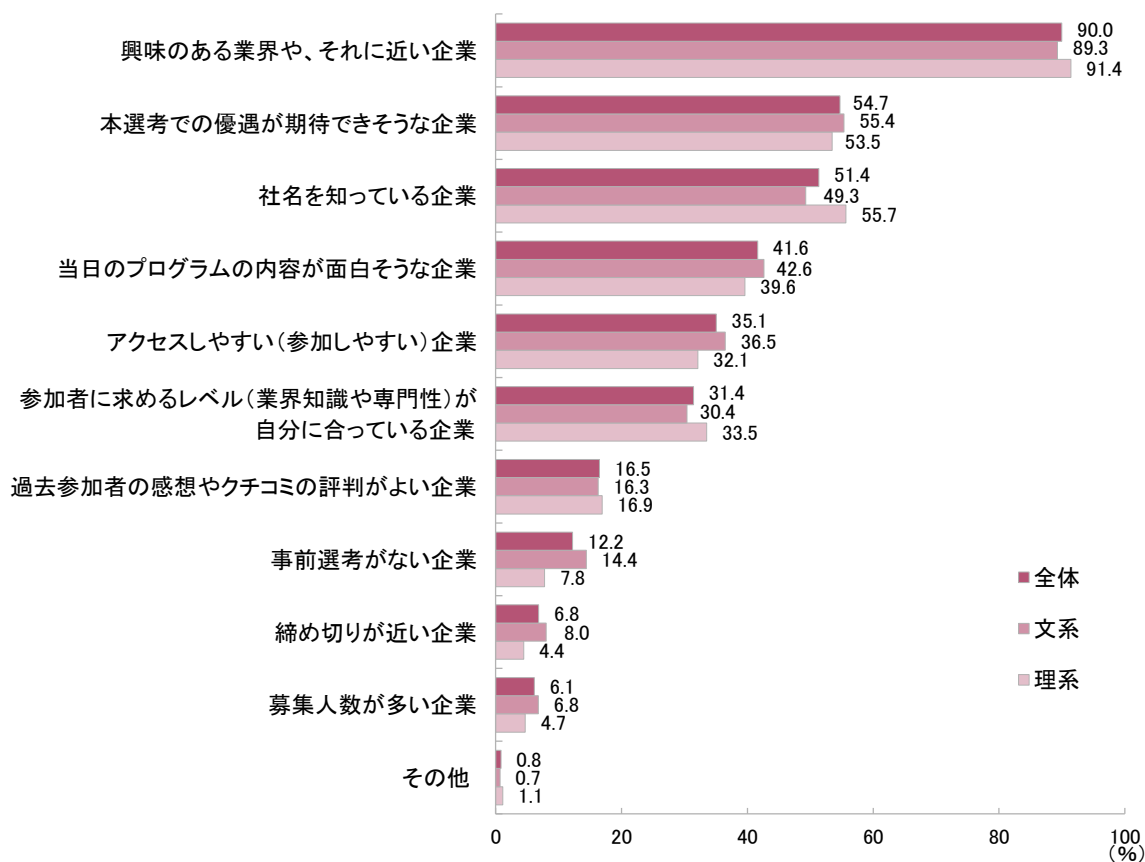


4. 参加企業の探し方

インターンシップ等のプログラムに応募・参加する企業をどのような軸で探しているかを尋ねた。「興味のある業界や、それに近い企業」という回答が最も多く、9割に上る(90.0%)。就職を意識し始めたばかりの学生が多い時期ではあるが、現時点で関心のある業界を中心に応募企業を探す学生が大半だ。「本選考での優遇が期待できそうな企業」(54.7%)、「社名を知っている企業」(51.4%)が5割台で続く。

他に「当日のプログラム内容が面白そうな企業」「アクセス(参加)しやすい企業」なども一定数が選んでおり、企業が参加者を募集するにあたっては、実施概要をわかりやすく伝えることも重要だ。

<応募企業を探す際の軸>

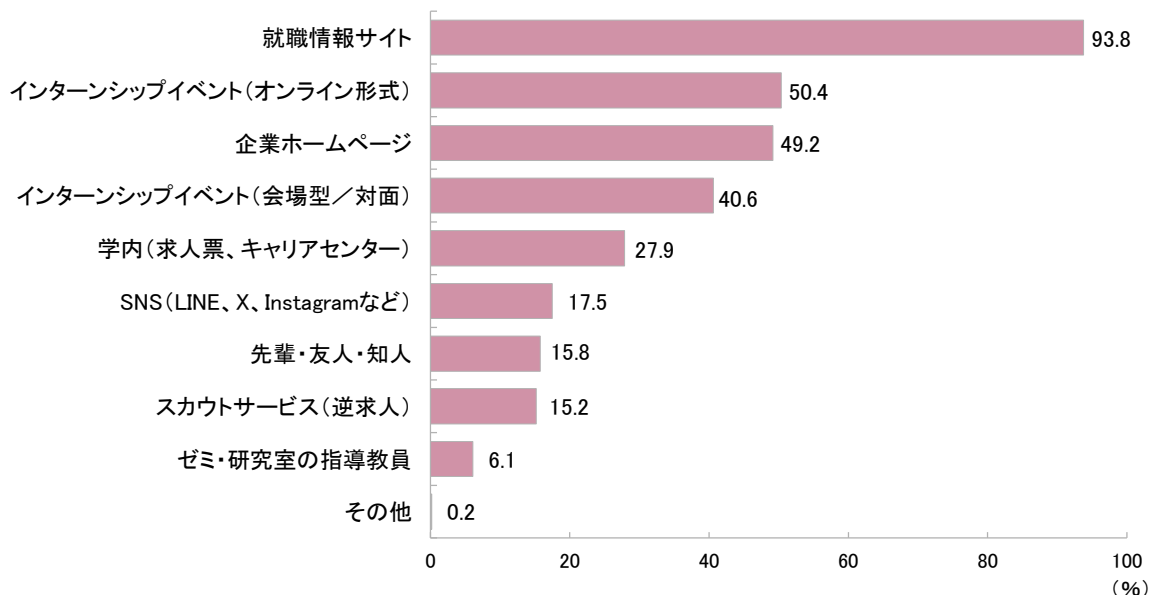


■参加方針や応募企業の選び方

- 企業で働くとはどういうことなのかがイメージできないため、イメージするための助けになるようなものに参加したい。 <文系女子>
- 自分に合っている業界かを見極めつつも、実利が得られるものに参加したい。 <文系男子>
- 見学だけにとどまらず実際の業務や課題に取り組める企業は優先度が高い。 <理系男子>
- 自分が少しでも興味のある業界は、参加したいと思っている。また本選考の際に優遇があるものや、参加した学生の評判の良い企業には積極的に参加したい。 <文系女子>
- 募集要項を見て、しっかり学生と向き合ってくれそうな企業に応募する。 <文系男子>
- 研究室へほぼ毎日行く必要があるため、居住地から近く(あるいはオンライン)、日数の少ないものを探している。 <理系女子>
- 時間が限られているので、早期選考に繋がったり、自分の成長に繋がったりするような企業を受けたい。また、今の段階で、業界を絞りすぎずに、幅広く受けた上で決断したい。 <文系女子>

参加企業を探す手段として最も多いのは「就職情報サイト」で、ポイントが突出している(93.8%)。ここに「インターンシップイベント(オンライン形式)」(50.4%)、「企業ホームページ」(49.2%)が5割前後で続く。他にも「インターンシップイベント(会場型)」(40.6%)、「学内(求人票、キャリアセンター)」(27.9%)など、様々な手段を活用し、情報収集をしようとしている様子が見られる。

<インターンシップ等の参加企業を探す手段>

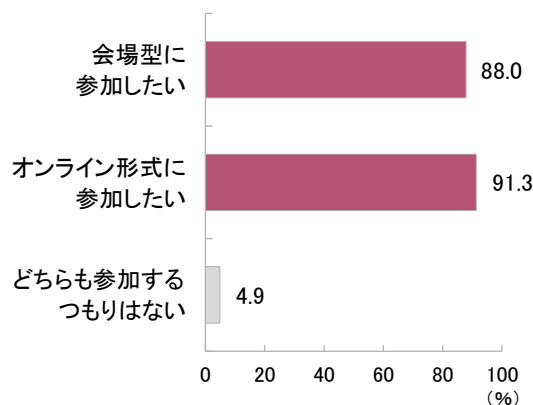


5. 就活準備イベントへの参加意向

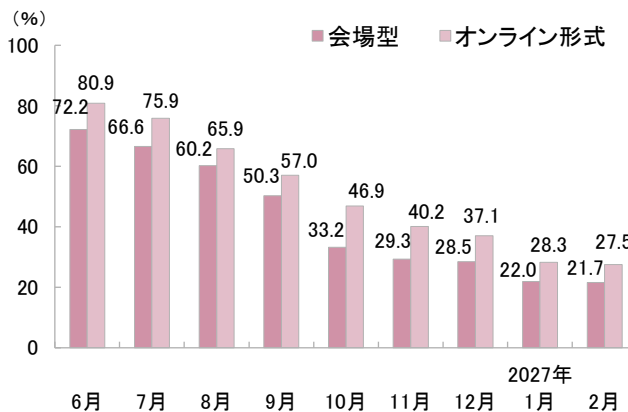
就職情報会社等が主催する就活準備イベント(業界研究やインターンシップイベントなど)への参加意向について、形式ごとに尋ねた。「会場型」(88.0%)、「オンライン形式」(91.3%)、ともに約9割で、形式によらず参加を予定している学生が大半だ。

参加を希望する時期は、会場型・オンライン形式ともに「6月」が最多で、「7月」が2番目に多い。まずは夏季インターンシップ等への参加企業を探したいという考えの学生が多いことがうかがえる。現時点では10月以降を選ぶ学生は比較的少ないが、今後参加意向が高まっていくとみられる。

<今後の参加意向>



<今後、参加したい時期>

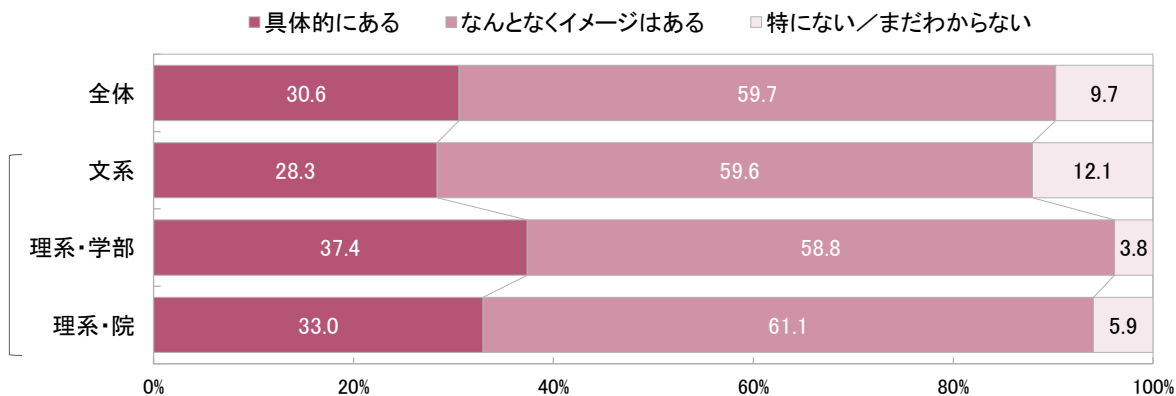


6. 現時点で興味のある仕事・業界

興味のある仕事や、やりたい仕事について尋ねると、「具体的にある」という回答が3割に上った(30.6%)。ただ、「なんとなくイメージはある」が約6割を占める(59.7%)。5月の調査時点では、やりたい仕事に明確になっていない学生が大半であり、漠然としたイメージを具体化するためにも、インターンシップ等のプログラムに積極的に参加したいと考えているのだろう。

属性による大きな差はないが、文系は理系に比べ「特になし/まだわからない」の割合がやや高い。

＜現時点で興味のある仕事・やりたい仕事の有無＞



現時点で興味を持っている、あるいは働いてみたいと思う業界を、12分類の中から3つまで選んでもらった。1位は「メーカー」で全体の約半数が選んだ(49.7%)。いずれの属性でも最多だが、とりわけ理系の大学院生で高く、8割近くに上る(77.6%)。理系の2位は、学部生・院生ともに「IT・通信」。文系の2位は「サービス」(29.1%)で、ここに「金融」「商社」が続く。文系は理系に比べ比較的ポイントが分散している。

＜現時点で興味がある・働いてみたいと思う業界＞

		※3つまで選択 (%)			
	全体	文系	理系・学部	理系・院	
1	メーカー 49.7	メーカー 41.2	メーカー 54.3	メーカー 77.6	
2	IT・通信 25.4	サービス 29.1	IT・通信 37.7	IT・通信 32.2	
3	サービス 21.6	金融 27.3	官公庁・団体 17.1	エネルギー 20.7	
4	金融 20.8	商社 22.5	建設・不動産 12.0	コンサルティング 15.5	
5	官公庁・団体 18.7	官公庁・団体 21.8	サービス 12.0	建設・不動産 14.4	
6	商社 18.0	マスコミ 21.2	商社 12.0	金融 9.2	
7	マスコミ 15.7	IT・通信 20.4	コンサルティング 7.4	官公庁・団体 8.6	
8	建設・不動産 14.3	コンサルティング 14.6	エネルギー 11.4	商社 6.3	
9	コンサルティング 14.3	建設・不動産 13.6	金融 7.4	運輸 5.2	
10	エネルギー 9.6	運輸 10.3	マスコミ 6.3	マスコミ 2.9	
11	運輸 8.0	流通・小売 7.5	流通・小売 6.3	サービス 2.3	
12	流通・小売 6.1	エネルギー 6.3	運輸 2.3	流通・小売 0.6	

※「サービス」=ホテル・旅行・教育・人材・福祉など

7. 興味を持ったきっかけ

興味を持ったきっかけを尋ねた。属性によって違いが見られ、文系で最も多いのは「業界研究をして興味を持った」(47.2%)。理系・学部生は「大学入学前から志望していた」が最も多く(45.1%)、就職を見据えた進路選びをしている学生が多いことがうかがえる。理系・院生は「ゼミや研究室で専門的に学んだことで」が7割近くに上り(67.8%)、研究分野の専門性を生かした就職を考える学生が多い。

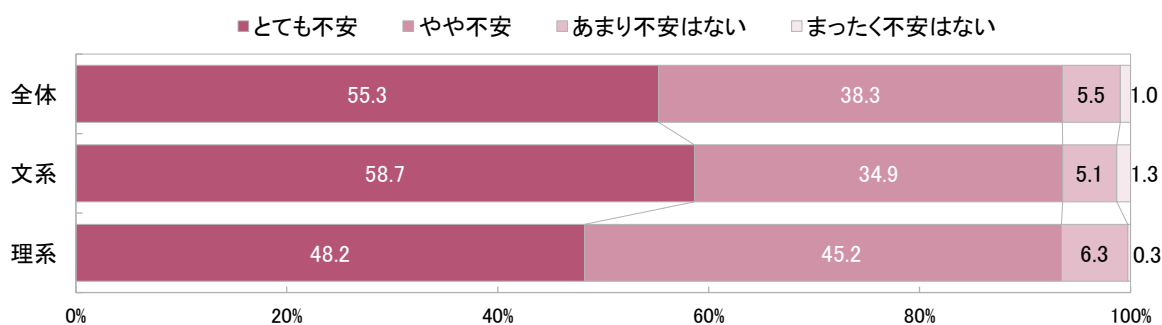
<その仕事・業界に興味を持ったきっかけ>

		(%)			
		全体	文系	理系・学部	理系・院
1	業界研究をして興味を持った	44.2	47.2	41.7	35.1
2	大学入学前から志望していた	36.1	34.2	45.1	34.5
3	ゼミや研究室で専門的に学んだことで	27.8	18.1	25.1	67.8
4	その業界の商品やサービスのユーザーとして興味を持った	25.5	28.4	22.3	17.8
5	課外活動などの経験から	21.1	24.3	18.9	10.9
6	専門ではないが授業で学んだことで	15.9	16.1	21.7	9.2
7	家族や先輩、知人が勤務(内定)しているの	12.7	12.5	10.3	15.5
8	親や家族の勧めで	8.7	10.7	4.6	5.2
9	友人の影響で	4.8	4.6	4.6	5.7
10	教授や指導教員の勧めで	1.5	1.6	1.1	1.1
11	その他	0.8	0.9	0.0	1.1

8. 就職活動に関する不安

就職活動に不安を感じるかどうかを尋ねた。「とても不安」と「やや不安」を足し合わせると9割を超え(計93.6%)、大半が不安を感じていると回答した。寄せられたコメントを見ると、5月という調査時期からか「何をすればよいか分からない」という、就活の進め方に関する不安が多い。自己分析や業界研究などで周囲に遅れをとっていないかという焦りもみられる。希望する大手企業・人気業界の競争率の高さから、内定を勝ち取れる自信がないとの声も寄せられた。こうした不安が、早期に就活準備をスタートするという行動に繋がっている面もあるだろう。

<就職活動に対する不安感>



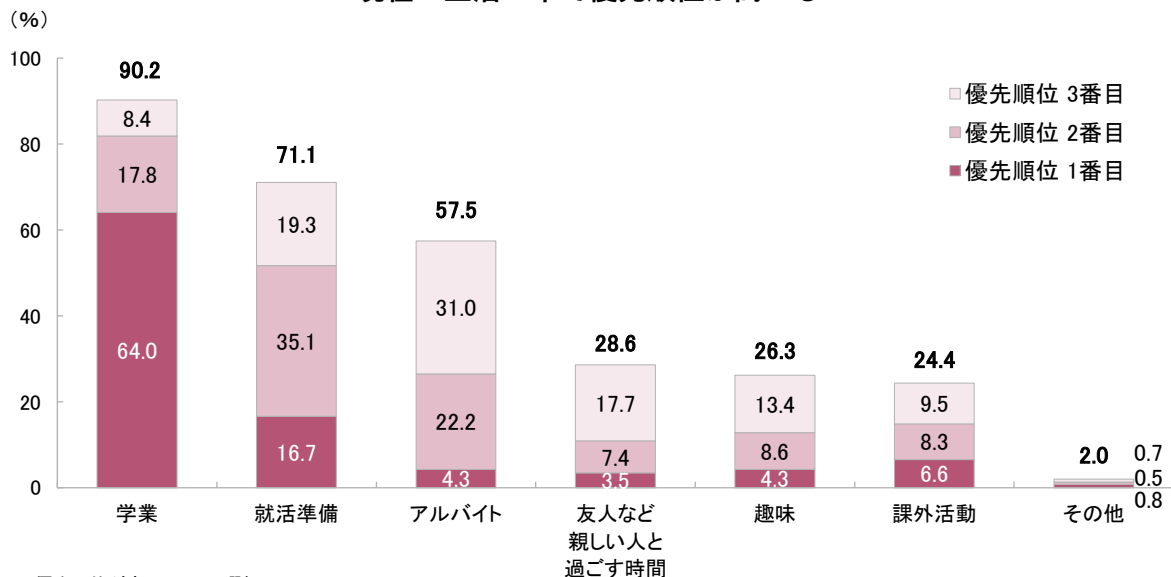
■具体的な不安

- 自己分析や業界研究などは全然進まないし、面接やGDが苦手なので、とても不安である。 <文系女子>
- 自分が志望する企業は大手であり、多くの学生も志望することを想定しているため、周りの人よりも優れたポイントを見せなければならないというプレッシャーを感じている。 <理系男子>
- 研究と授業と就活との両立。また、自分に合った企業を見つけられるかという不安。 <理系女子>
- 何を対策すればよいか分からない。今の私が受かるとは思えない。 <文系男子>

9. 大学生活について

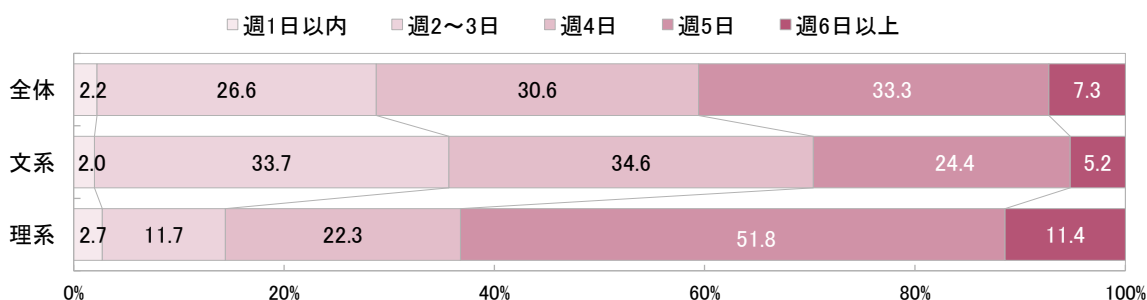
学生生活についても尋ねた。学業など7つの項目について、現在の優先順位の高いものから順に3つ選んでもらった。1~3番目を合わせて最も多いのは「学業」(計90.2%)。特に「優先順位1番目」に選んだ学生が6割を超え(64.0%)、集中度が高い。2番目に多いのは「就活準備」(計71.1%)で、早くも就職活動に意識が向いている学生も多い。次に「アルバイト」が続き、その他は比較的分散している。

<現在の生活の中で優先順位が高いもの>



なお、現在の登校頻度を尋ねたところ「週5日」が最も多く(33.3%)、次に「週4日」が多い(30.6%)。文系に比べ、理系の方が登校頻度が高い。プログラムを探す際、学業の妨げにならないことを重視する学生は多く、長期休暇中など学生が参加しやすい時期に開催することが重要だろう。

<大学に登校する日数/週>



■現在注力していることやハマっていること

- 秋ごろにゼミの大会があるため、研究の内容をまとめることを最優先にしている。 <文系女子>
- 大学院生になりたてなので、研究に最も注力している。研究の合間や休日には研究室の同期とドライブに出かけて息抜きしている。 <理系男子>
- 学生祭の実行委員なので、秋の学生祭当日に向けての準備に注力しています。 <文系男子>
- 一番注力していて、かつ楽しいのは、塾講師のアルバイトです。日々の授業で以前よりも上手くできることが増えて、やりがいも多く感じられます。 <文系女子>
- 現在は就職活動と並行しつつ、趣味に注力しています。就職して忙しくなる前に自分を追い込んで悔いの残らないように活動しています。 <文系男子>
- 企業説明会を聞くことが楽しく、ハマっている。 <理系女子>